

◀ 巻末の付録USBメモリに詳細版を収録 ▶

## 第10部

### 医療・災害医療現場での情報技術活用技術の研究 (概要版)

奥村 貴史、前田 貴匡、中河 清博

#### 第1章 はじめに

Medicri(Medical Crisis)WGは、2010年4月より活動している、医療崩壊問題や災害医療に対する情報技術の寄与について検討するワーキンググループである。昨年度は、3月に生じた東日本大震災への対応を中心とした活動を行う形となったが、今年度は災害対応も落ち着き、医療崩壊問題への取り組みを中心に行った。

#### 第2章 人材育成

まず、医療崩壊の背景にある医療従事者の労働環境を改善するために、医療用情報システムの品質向上を目指した情報系人材に対する医学教育を継続した。とりわけ、今年度は、「医療用情報システムの技術革新に向けた人材育成企画」と称した全10回開催、定員20名のワークショップを開催し、医療の適切な情報化を支える人材の育成に励んだ。ワークショップでは、前半1時間を医療の情報化に関する講義として、具体的な医療用情報技術から、医学、医療、保健医療分野の情報政策など幅広いテーマを扱った。また、後半1時間は、演習枠として、医療用情報システムに関する技術面、医学面、医療制度面、医療社会学の観点から解説を加え、現状の問題点と改善策に関する討議やグループワークを行った。

#### 第3章 医療従事者フィードバック

また、本WGの設立趣意書にも記載されている現場の医療従事者からのフィードバック取得に向けて、関連技術の調査と実現に向けた準備を進めた。具体的には、多数

の医療従事者による利用が見込まれ、また、多くのフィードバックが期待できる「診断支援システム」をインターネット上に公開し、WGとしてそのユーザーグループを運営するという手法について検討を行った。

#### 第4章 災害への対応

本WGのもう一つのミッションである災害医療への貢献としては、保健医療行政における危機管理用情報システムに対する技術支援を継続して行った。具体的には、2011年の東日本大震災後に生じた各種の情報共有上の問題への対応として開発したi-Crisisの運用やFaxOCRシステムの開発に協力した。また、WIDEクラウドの国立保健医療科学院ノード群の増強と運用支援、さらに、厚労省の保有する災害対応システムのWIDEクラウド上への展開に向けた技術面での調整を行った。

#### 第5章 おわりに

WG設立3年目となる今年度は、医療の情報化を担う人材育成を中心に、従来より継続している災害支援を行った。また、医療用情報システムの柔軟性を損ねる最大の原因である情報セキュリティについて、オールWIDE体制で研究を進めていくためのブレインストーミングを試みた。このように、本WGは、医療崩壊問題の軽減に向け、保健医療行政の支援や人材育成に対する活動実績を積み重ねて来た。しかしながら、研究活動の遂行においては、人材の少なさからくる制約が少なくない。そこで、今後は、WG活動の広報も充実させることで、より多くのWIDEメンバーや学生からの認知と支援を頂きながら進められるよう努力したい。